

地域の文化・自然遺産を未来へと守り伝える“未来遺産運動” 第3回「プロジェクト未来遺産」 10プロジェクト登録決定

情報解禁日時 2011年12月26日(月)15:00

青森県、栃木県、富山県、三重県、大阪府、大分県の
1府5県から**初登録！！**

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、2011年12月19日(月)、第3回「プロジェクト未来遺産」として、下記の10プロジェクトを登録することを決定いたしました。このプロジェクトは地域の文化や自然遺産を未来へと伝える「未来遺産運動」の主要な柱をなしているものです。

本年度は、昨年に引き続き、全国の22都道府県の33プロジェクトの応募から、「危機に直面している遺産を守る」「生物多様性を活動に取り入れている」という2つの視点を優先的に考慮し、下記の10のプロジェクトを選定いたしました。今後は1月から3月にかけて「プロジェクト未来遺産」実施地域で登録証書授与式が行われます。各授与式の予定は後日ご連絡いたします。

	プロジェクト名	団体名	市町村
1	稲生川(いなおいがわ)開削と三本木原(さんぼんぎばら)開拓の志を活かし、共創郷土の伝統を未来に	「太素の水」保全と活用連合協議会	青森県十和田市
2	渡良瀬川源流の森再生プロジェクト 一足尾銅山の荒廃地に植樹	特定非営利活動法人 足尾に緑を育てる会	栃木県日光市
3	現代の癒し「布橋灌頂会(ぬのばしかんじょうえ)」を永遠に語り継ぐために！	布橋灌頂会実行委員会	富山県中新川郡
4	伝統行事を支えていく未来の担い手育成事業	春を呼ぶ会	三重県名張市
5	ニッポンバラタナゴを守る伝統的な溜池浄化法 “トビ流し”の継承	NPO法人ニッポンバラタナゴ 高安研究会	大阪府八尾市
6	天神崎(てんじんざき)の自然の維持と環境教育の推進	公益財団法人 天神崎の自然を大切にする会	和歌山県田辺市
7	未来につなごう！尾道・坂の町再生プロジェクト	NPO法人 尾道空き家再生プロジェクト	広島県尾道市
8	未来に遺す「生きた鉄道博物館 ～100年レイル肥薩線への情熱～	人吉鉄道観光案内人会	熊本県人吉市
9	千年の時を刻む荘園村落遺跡「田染荘(たしぶのしょう)小崎」	荘園の里推進委員会	大分県豊後高田市
10	生きもの元気、子どもも元気、漁師さんも元気な 中津干潟保全活動	NPO法人 水辺に遊ぶ会	大分県中津市

本件や各団体の連絡先等に
関するお問い合わせ
※各団体の連絡先は、個人宅の場合
もございますので当連盟へご連絡下さい。

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 組織部：竹内・尼子
携帯：090-7258-1130
E-MAIL: takeuchi@unesco.or.jp amako@unesco.or.jp

登録10プロジェクト紹介

		活動概要
①	<p>「太素の水」保全と活用連 合協議会</p> <p>稲生川開削と三本 木原開拓の志を活か し、共創郷土の伝統 を未来に</p>	<p>私たちは、稲生川開削と三本木原開拓の志の伝承、人と自然の共生や生物多様性の認識を学習と体験によって深め、市民の自発的参加による地域文化の創造を目指しています。稲生川流域の生態系保全、美化活動、自然観察会、人づくり・地域づくり活動等を通し、地域一体となって「人と自然が共に創る郷土」を未来に伝え、地域の更なる発展を目指します。</p>
②	<p>特定非営利活動法人 足尾に緑を育てる会</p> <p>渡良瀬川源流の森 再生プロジェクトー 足尾銅山の荒廃地に 植樹ー</p>	<p>栃木県日光市足尾町は約400年もの間銅山と共に歩んできた町である。足尾銅山は、日本一の銅山として国の経済を支える一方で銅の精錬過程で排出される亜硫酸ガス等により木々を枯らし、周辺の山々は荒廃してしまった。「NPO法人 足尾に緑を育てる会」は、「足尾の山に100万本の木を植えよう。」を合言葉に、この荒廃してしまった源流の森を再生しようと地道で息の長い緑化活動を展開している。</p>
③	<p>布橋灌頂会実行委員会</p> <p>現代の癒し「布橋灌 頂会」を永遠に語り 継ぐために！</p>	<p>「布橋灌頂絵」は、江戸時代に霊山立山への登杯が許されなかった女性が、白装束姿で白い布がしかれた橋を渡り、極楽浄土を願う儀式。明治時代当初より廃止されていたが、古来より培ってきた文化の力を借りて現代的に復元する声が高まり、平成17年度に再現された。この「布橋灌頂絵」を、美しく荘厳な「癒しのイベント」として文化的要素を高めながら実施することによって、広く発信をしていきたい。</p>
④	<p>春を呼ぶ会</p> <p>伝統行事を支えてい く未来の担い手育成 事業</p>	<p>関西に春を告げると言われる『お水取り』（東大寺二月堂修二会）で使われる松明木を760年前より寄進している「伊賀ノ井松明調進行事」が、地元には残されている。地域では、「講」が組織され伝統行事を守り継いでいただいているが、後継者不足、高齢化という問題を抱える。春を呼ぶ会では25年前より講を中心にサポート体制を整え、いにしへの姿に戻し、古道を通り東大寺まで運ぶ行程を一般の人たちにも体験してもらい、伝統行事や地域文化への理解と協力を市内外へ積極的にPRしている。近年は地元高校生にも呼びかけ、体験学習、地域貢献として次世代の若者たちへの積極的な参加も進めている。</p>
⑤	<p>NPO法人ニッポンバラタナ ゴ高安研究会</p> <p>ニッポンバラタナゴ を守る伝統的な溜池 浄化法 “ドビ流し ” の継承</p>	<p>ニッポンバラタナゴは大阪府、奈良県、香川県の溜池および九州北部の用水路など一部の水域のみに生息する希少淡水魚である。大阪府八尾市高安地域では、かつて、溜池の水を利用した花卉栽培と稲作が活発に行われ、毎年農閑期には伝統的な水循環管理方法である池干し（“ドビ流し”）が実施されていた。このプロジェクトは、ニッポンバラタナゴとその産卵床となる淡水二枚貝のドブガイが自然繁殖できる水環境を再生するための伝統的な農業管理方法“ドビ流し”と、高安地域の生物多様性を次世代へ継承することを目的としている。</p>

登録10プロジェクト紹介

	(上)団体名/(下)プロジェクト名	活動概要
⑥	<p>公益財団法人 天神崎の自然を大切にす る会</p> <p>天神崎の自然の維持と環境教育の推進</p>	<p>天神崎は和歌山県田辺市の市街地に隣接した景勝の地である。1974年、この天神崎の丘陵地に別荘建設の計画がおき、市民有志で「天神崎の自然を大切にする会」が結成され、人々に寄付金を募り別荘を買い取る運動を展開し、別荘予定地所得にこぎつけた。以来、天神崎一帯の森林を中心に土地の市取得を進め保全地とするとともに、海岸や海底の清掃活動や子どもたちをはじめ多くの人々に理解を深めてもらうための自然観察教室や自然学習を実施している。</p>
⑦	<p>NPO法人 尾道空き家再生 プロジェクト</p> <p>未来につなごう！ 尾道・坂の町再生プ ロジェクト</p>	<p>戦火を免れ、築かれた当初の町並みをそのまま残す坂の町・尾道。しかしながら車中心の社会への変化や核家族化、少子高齢化による中心市街地の空洞化といった現代の社会問題を抱えている。特に深刻なのは車の入らない斜面地や路地裏などの住宅密集地に増え続ける空き家問題とその老朽化である。このプロジェクトは尾道の旧市街地に残された尾道らしい建築や景観、コミュニティを地域資源として次世代に引き継いでいくことを目的に空き家再生、定住促進の事業を始めコミュニティ、建築、環境、観光、アートの5つの視点から幅広く活動を展開している。</p>
⑧	<p>人吉鉄道観光案内人会</p> <p>未来に遺す「生き た鉄道博物館～100 年レイル肥薩線への 情熱～</p>	<p>肥薩線は、1909年に全線開通した鉄道路線で、熊本・宮崎・鹿児島県の3県を貫く産業基盤として、日本の急速な近代化に大きく貢献した。しかし、後に主要幹線から外されて地方路線となり、結果として日本初にして唯一のループ線+スイッチバック構造の線路をはじめ、球磨川を渡る三大橋梁、55ヶ所のトンネル群、駅舎等の建造物が、老朽化しながらも、現役で稼働している。「人吉鉄道観光案内人会」は、元鉄道マンの集まりとして、観光客等への案内ガイドや語り部活動の実施、子ども向け体験イベント、清掃活動等を展開し、肥薩線を生きた産業遺産として後世に伝えていく。</p>
⑨	<p>荘園の里推進委員会</p> <p>千年の時を刻む荘 園村落遺跡「田染荘 小崎」</p>	<p>豊後高田市田染地区は、六郷満山文化の遺産が数多く残る地区です。その中でも『田染荘』は、平安時代に宇佐八幡宮の「本御荘十八箇所」と呼ばれる根本荘園のひとつとして重要視され、生きた「荘園村落遺跡」として高い評価を得ています。これからも、地元小中学校の児童を巻き込み、地区民と共に「御田植祭」や「収穫祭」、「ホタルのタベ」などのイベントを開催しつつ、「荘園領主制度」や「農家民泊」を通して地区外の『田染荘』のサポーターを増やし、このすばらしい自然、文化を後世に引き継いでいきます。</p>
⑩	<p>NPO法人 水辺に遊ぶ会</p> <p>生きもの元気、子ど もも元気、漁師さん も元気な中津干潟 保全活動</p>	<p>中津干潟は福岡県豊前市から大分県国東半島までの海岸線に広がる豊前中津干潟の中心に位置する中津市沿岸の干潟を呼び瀬戸内海では最大の面積を誇る干潟である。子どもたちの環境教育や情操教育の場として、近年「干潟」の役割が大きく注目される中、子どもたちを対象とした自然観察会や漁業体験などの行事の実施、定期的な海岸清掃、学校教育や社会教育と連携した環境学習を通じ、保全啓発活動に積極的に取り組んでいる。また、国内の多くの研究者と協同し、干潟生物や環境の調査研究活動も継続して実施している。</p>

未来遺産委員会 委員長 総評

総評

今年は、東日本大震災の影響もあり、東日本からの応募が目に見えて少なかったほか、全般に応募数が合計33件と前年を下回りました。今はまだ未来遺産を語る余裕もない地域も少なくないことに心を痛めています。

ただ、復興のためにも心に元気を取り戻すためにも、未来へ向けた遺産を残す本プロジェクトの重要性はいささかも変化ないと思います。実際、応募があったプロジェクトはいずれも力のこもったものばかりで、審査は白熱したものとなりました。

選考にあたっては、未来遺産委員の中に学識経験者によるワーキンググループを設置し、有形文化遺産、無形文化遺産および自然遺産のそれぞれの専門分野ごとに応募案件を精査し、有力な14件に絞り込みました。

この14件のうち現地調査が必要なプロジェクトはこれを実施し、そのうえで未来遺産委員全員が集まり、現地調査結果の報告も交えて、選考を行いました。

最終的に選ばれた10プロジェクトは40年におよぶ歴史を有する天神崎保存の運動から、比較的近年生まれた地域興しの運動まで多様ですが、有形・無形を問わず、地域の宝を大切に守り育てていこうという心意気とたゆまぬ努力はいずれも共通しています。惜しくも選に漏れた他のプロジェクトも、じっさいは優劣付けがたく、僅差での選考であったことを付言しておきたいと思います。地域における活動の重みはいずれのプロジェクトにおいても、いささかも変わりないと思います。

こうした未来遺産運動の輪が、ここに選ばれた10プロジェクトから波紋のように周辺に広がり、さらに魅力的な日本を次世代にひきつづけることができるよう、わたしたち全員が支援し、見守り続けたいと思います。



未来遺産委員会委員長
西村 幸夫
(東京大学先端科学技術
研究センター教授)